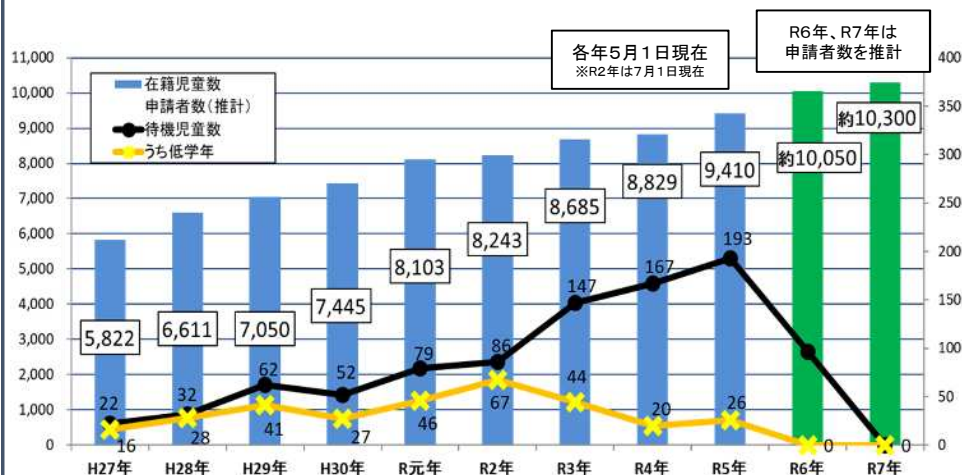


放課後児童クラブの待機児童解消について

- 放課後児童クラブは、ニーズの高まりにより、**在籍児童数、待機児童数が年々増加**
- 施設と支援員等の確保を積極的に進め、**令和6年度には低学年の待機児童ゼロ及び令和5年度からの待機児童数半減**を、**令和7年度には待機児童ゼロ**を目指す

放課後児童クラブの在籍児童数の推移 (平成27年度以降)



項目	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	H27年～R5年 比較
児童クラブ在籍児童数	5,822	6,611	7,050	7,445	8,103	8,243	8,685	8,829	9,410	61.6ポイント増加
市立小学校児童数	37,925	37,762	37,656	37,565	37,282	36,945	36,598	36,023	35,427	6.6ポイント減少
児童クラブ利用率	15.4%	17.5%	18.7%	19.8%	21.7%	22.3%	23.7%	24.5%	26.6%	11.2ポイント増加

- ・保育環境の整備が進み、女性の就労継続とともに、小学校入学後や2年生、3年生になっても継続して利用したいというニーズが増加。
- ・平成27年度から令和5年度までの8年間で利用率は11.2ポイント増加。

待機児童解消に向けた今後の取組

令和5年5月1日時点 待機児童数 193人(うち低学年26人)

令和6年度に向けた具対策
 ・特別教室のタイムシェア
 ・専用施設の建設(芳明、中山)

令和6年5月1日時点
 ・低学年(1～3年生)の待機児童ゼロを目指す
 ・令和5年度からの待機児童数半減

令和7年度に向けた具対策
 ・専用施設の建設
 (高島、横井、西大寺)

令和7年5月1日時点 待機児童ゼロを目指す

【施設】

・教育委員会、学校の協力を得て、特別教室のタイムシェアの活用を積極的に行うとともに、専用施設の建設により、施設の確保を進めていく。

【支援員等】

・これまでの取り組みに加え、より効果的な人員確保策の検討を行い、各運営主体と協力しながら、支援員等の確保に尽力していく。